

「バイオマスエネルギーが地域産業を興す（最上町）」

課題（状況）

- 昭和50年代拡大造林が行われたが、材価が低迷で資本投下ができず森林が荒れた状態にある
- 人工林も林齢35年超となり、間伐等森林整備は喫緊の課題

目標（数値）

- 間伐材をエネルギー利用することで所有者の負担なしで森林資源を育てる
- 間伐材収穫システムの構築
 - チップ製造システムの構築
 - 効率的なエネルギー利用システムの構築

具体的な取組

- 間伐材収穫システム（列状間伐、土地の所有権・利用権の分離による土地の集約化、高性能林業機械での生産性向上など）
- チップ加工システム（含水率安定、冬季の間伐材の安定供給のための貯留施設の設置）
- エネルギー利用システム構築－ウェルネスセンター、園芸ハウス等での冷暖房・給湯・熱利用
- バイオマスエネルギー利用の入口から出口まで各事業体が役割を分担し事業に取組む
- 地域の林家：利用権と所有権の分離を理解し、計画的施業を行うことで収穫量が向上
- チップの製造供給事業体：間伐から燃料供給まで一貫した事業体を構築
- 東北トラベル、東法田みつわ会：視察研修を旅行商品として開発、昼食を提供など
- 行市営：コーディネーター（団体を繋ぐ）

・国の制度に則って事業を進めていき、年度々々で変わる事業メニューをうまく活用し、予算獲得

規制

・補助金に加え、間伐材のエネルギー利用を進め対価を得て、森林整備資金を貰うことが難しいが必要

解決

最上町プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源 人材

支援政策 協力者

产学連携 技術

地域の林家
最上町観光協会

特になし

- （株）もがみ木質エネルギー
- バイオマス視察ツアー関係者等（株）東北トラベル、東法田地区みつわ会など

結果（数値）

- 間伐材生産、チップ加工、燃料供給を一体的に行う燃料会社設立による効率化と間伐（森林整備）の促進
- バイオマス視察ツアーが農業・観光ビジネスに及ぼす効果－視察ガイドの育成、農家レストランによる昼食提供などを実施
- 化石燃料の削減効果（4割強を削減）

地域の変化

- 薪やペレットなど自然エネルギーへの転換が出ており、住民の再生エネルギー・環境への関心の高まりが見られる（民間事業者によるメガソーラーの設置が開始されている）

残る課題

- 年間エネルギー利用効率の20%向上
- 太陽光・中小水力未利用温差熱利用など再生可能エネルギー利用比率20%の達成
- ストーブ設置等によるバイオマス利用の促進による雇用の拡大

次の行動

- 薪の利用も含めた木質バイオマスエネルギーの利用拡大
- 小学校等に太陽光パネルと蓄電池を設置、グリット化し効率よい利用を行う